

甲賀市くすり学習館

薬草の利用は、現在の滋賀県に位置する甲賀地域で長い歴史があります。これらの植物に関する知識は忍者にとって重要であり、彼らはこれらを組み合わせて様々な薬を作りました。甲賀市くすり学習館を訪れると、忍者がどのように薬草を使用したか、また甲賀と薬の歴史について学ぶことができます。

学習館の常設展示では、江戸時代（1603-1868年）から昭和（1926-1989）にかけての初期の薬品器具や薬の看板、広告が展示され、薬の製造と販売の歴史を辿ることができます。また、薬草をテーマにした体験型の展示もあり、現在も続く甲賀の薬業の発展を総合的に知ることができます。

忍者たちは薬草から忍薬を作り、薬理学の知識を活かしました。1676年、忍者の家系の一員である藤林氏が「万川集海」という甲賀（滋賀県）と伊賀（三重県）の忍術を集めた書物を編纂しました。この書物には、忍者が任務中やスキルを磨くために遠方で使用した様々な忍薬が記載されています。忍者たちは、敵を病気にさせたり弱らせたりする薬や、忍者の存在を知らせないために犬を倒す薬も作っていました。

甲賀市くすり学習館では、少額の参加費で、忍者がエネルギーを高めるために食べたと思われる簡単な一品を作る体験ができます。この体験はすべての年齢層に適しており、事前予約が必要です。詳細については、甲賀流リアル忍者館の観光案内所や、甲賀市くすり学習館に

お問い合わせください。